

朝鍋鷲ヶ山 1074m 岡山県

ポンポン山雑感

地形図「延助・美作新庄」

2017年10月10日

三鍋敏郎

昨夜は奥津にある源泉かけ流しの民宿に泊った。風呂は小さいが泉質も良く温まる。夕食も朝食も美味しいが、頑として朝食が8時開始なので登山者的には困る。

真庭市にある、標高700m辺りを横切る林道川上2号線沿いの登山口から登る。いきなり急な階段が続いている。道にコバノガマズミの赤い果実が転がっている。暫くは杉の植林地であるが800m辺りからブナが現れる。この辺りからは植生が豊かで楽しめる道が続く。標高900m辺りで一旦傾斜が緩み一息つけるが、再び急坂となる。標高1000m辺りから穏やかな道になると北からの稜線の道と合流する。道標があり左に折れ南に進む。ムラサキシキブの薄紫の果実やサワフタギの実が傍らにある。分岐からは短時間で朝鍋鷲ヶ山に到着する。

山頂部分には切り開きがあるが周りが背の高い樹林に囲まれている。しかし、国体記念の「感動の碑」(いしぶみ)の石碑の傍に背の高い鉄骨の展望台が作られているのでそれに上がると、360度の展望が開け、中国山地の山々、大山、蒜山や日本海が見る雄大な風景が広がっている。

山頂付近の草むらには青紫のリンドウが数株咲いている。山頂から西に向かうとススキの向こうに送電鉄塔が見える。灌木の中をしばらく進むと、送電施設の小屋があり、そこを下って行くと見事なブナ林の台地になる。小鳥のさえずりが木霊のように森の中に広がり視線は自然とブナの梢を探るが、なかなか小鳥たちの姿は見えない。

標高1068m峰で昼食タイム。せっかく朝鍋鷲ヶ山に登ったのならば是非ここまで足を延ばしてほしいものだ。林床に笹の海が広がる最高のブナ林に出合える場所である。笹を切り開いた登山道の両脇には、オウレンの深緑色の葉っぱが絨毯のように広がる中に、ツルアリドウシの蔓に赤い実が無数に散らばってまるで宝石のようである。

以前、南にある金ヶ谷山から朝鍋鷲ヶ山への縦走を試みたが中間地点の1068m手前で集中豪雨となり山行を中止した。食事後、私は一人で中止地点まで歩いて風景の記憶を辿る。下山は1068m峰からもと来た道を引き返すが、見落としていたカシワの木やマルバフユイチゴの赤い果実、ガンクビソウなどを発見する。

下山後、朝鍋鷲ヶ山方面を振り返ると稜線の穏やかな山である。朝鍋は浅鍋ではないかと推察する。

★メンバー 楠見・三鍋・会員外1名 ★コース 登山口 10:15～906m 10:46 発 50～尾根分岐 11:15 発 20～山頂 11:27 発 11:47～1068m峰 12:15 発 12:43～朝鍋鷲ヶ山 13:17 発 13:33～尾根分岐 13:37～登山口 14:20